

<第4458回>

目的地：氷ノ山(但馬) 鳥取 若桜 氷ノ越コース

担当者：松岡

実施日：2024年2月10日(土)~11日(日)

形式：雪山ハイキング 宿舎泊

費用：¥23,080 (JR大阪駅起点)

参加者：2名

行程：

2/10(土) 晴れのち曇り

[JR]大阪(11:25) 特急スーパーはくと5号 倉吉行き 3番線⇒(13:42)郡家(こおげ)

[若桜鉄道] (14:26) 若桜(わかさ)行き⇒(14:58)若桜

[町営バス] 若桜駅(16:10)⇒(16:34)スキー場→(17:00)氷太くん泊

2/11(日) 天気：曇り時々雪

氷太くん(6:30)→(7:15)氷ノ越コース登山口→(9:10)氷ノ山越(9:30)→(11:10)氷ノ山

(11:40)→(12:45)氷ノ山越(13:15)→(13:40着)登山口

→(14:00)氷太くん→スキー場(14:40)⇒(15:03)若桜駅

[若桜鉄道] (16:13) 鳥取行き⇒(16:45)郡家

[JR]郡家(17:04) 特急スーパーはくと12号 京都行き⇒(19:31)大阪 解散

感想：

今回はYさんとの2人旅。前日の夕方、鳥取県若桜町の宿「氷太くん」に到着。松岡は、登山口まで雪状態を確認するための下見に行き、Yさんは新しい高価6万円のスノーシューでのお試し練習。夜、窓から外を眺めると、雪がシンシンと降っており、頼むからもうこれ以上雪積もらないで！という気持ちでした。朝4時に起床、まずはしっかりと朝食をとる。外は、まだ雪が降り続けている。新雪が積もっているので、最初から、スノーシュー、ワカンをつけて行こうと判断。アイゼンだと、踏み跡で固まっている部分を外すと、雪を踏み抜いてしまい、体力を奪われてしまうため。朝6時半に出発。宿から登山口までは、除雪されておらず、雪がぎっしり積もっており、夏のコースタイム16分が、冬は3倍の45分かかった。雪の状態は、これまでの踏み固まった雪70センチぐらいに、新雪15センチという感じ。コースはマークが無く夏道はわからなかったが、幸運にも1番手の方のトレースがあり、道迷いは1回だけでした。傾斜がキツイ登りは、サラサラの新雪のため、滑って苦労した。やっとの思いで、氷ノ越の稜線に到着時、自分達は2番手で、後から来た人に、踏み跡ができていて助かったと言われて、ちょっと嬉しかった。

稜線では、風が吹かなかったので、寒くなく、トレースもあるので、軽快に歩くことができた。雪の光の反射防止でサングラスは必須でした。コシキ岩の手前で、ピッケルを持ち、滑落防止の訓練を行った。コシキ岩のトラバースは、道幅が狭く、左側が谷なので、滑落に注意する箇所があり、緊張した。ピッケルを持って来て安心でした。頂上までの登りは、雪模様のため見通しは悪く、氷ノ山の頂上(避難小屋)が見え、頂上に到着できた時は、本当にホッとした。避難小屋の中で、体力を回復させるため、コーヒーを飲んだ。温度計を見ると、2℃と暖かった。

帰りは、少し余裕ができて、雪景色を楽しむことができた。北方向に鉢伏山も見えた。やはり、氷ノ山は、人気の雪山のようで、続々と、登山客が登ってきた。3人以上のパーティが多く、中

にはアイゼンだけで登る強者もいた。氷ノ越からの下りでは、たくさんの人に踏み固められたトレースがあり、道は明瞭で、アイゼンに履き替えたので、滑ることなく、コースタイムより短時間で下ることができた。今回は、なかなかの雪山体験ができました。Yさん、たくさんの写真を撮ってくれてありがとうございました。

特 記：

宿の「氷太くん」は、スキーや登山のお客に慣れており、朝食の登山弁当、サーモス用のお湯、登山後のお風呂を準備してくれ、とても親切でした。